

## 弔辞

覚先生、天国のお母さんにお会いできましたか？

あなたが息を引き取る二時間ほど前に駆け付けた私たちに、奥様は、「今、きつとお母さんが来ていると思いますよ」と仰るほど、とても穏やかな表情でした。

「おふくろが迎えに来る」と何度も何度も言っていたそうですね。そうやって、奥様とのお別れ、悲しみを押し隠していたのでしょうか？

奥様も明るいそぶりをしながらそれを必死に耐えていますよ。

お二人は本当に仲の良いご夫婦でした。

覚先生は、困っている人を見るとわき目もふらずほとんどんその中に入っていく方でしたが、関わりが深くなるとトラブルも発生します。それをとても上手に解決してくださるのが奥様でした。

Sさんのお世話をするときもそうでした。私も夜回りに同行したことがあります。十字屋の外階段で寝ていたSさんと関わり、老人ホームに入れるために、まず、住所を作り(市役所ではとても協力的でした)、

アパートに住まわせ、一年後、無事入所させてもらいました。

老人ホームに入所したあとも沢山の出来事がありました。不思議なことにとんな難問も必ず「終わりよければすべてよし」と解決します。

マザーテレサを尊敬していた私は、大学時代にインドのカルカタで、マザーテレサの活動をお手伝いしたと話してくださったとき、「後先考えずに行動するかのように見える内側にはそれがあつた」と、すぐに合点がきました。

覚先生、あなたが生きてきた道は神さまの前にまっすぐな道でした。それを理解し、いつも笑顔で支えてくださったのが奥様でした。

学校では、あなたが好きな剣道を部活としてゼロから立ち上げてくださいました。その情熱が今の剣道部に受け継がれ、校長室に優勝旗が四旗、優勝杯もいくつも並んでいます。昨年は、中学総体で優勝しました。今年も、高校総体で優勝することを確信していたあなたが、その結果を見ずに逝ってしまわれたことは、とても残念ではありません。

また、ボランティア部も立ち上げ、特に東日本大震災から二カ月しかたっていない街で「親を亡くした子

どもたちのために」と募金活動を始めました。

あの行動力に、私は、マザーテレサの姿を重ねていました。

放射能におびえている福島の子どもたちが、函館でキャンプしているところへボランティア部の生徒たちと出かけました。夕食後、琵琶を弾き語りするお話に怖がって泣く子もいました。

あなたの平家物語は、まるで琵琶法師が乗り移ったかのようなすごさがありました。

本職の国語の研究授業で、知識だけでなく、生徒たちの心を耕す見事な授業を見ることができました。

あなたの良さがそこにもありました。

休み時間になると、いつも周りに生徒がいました。

ちょっと辛い思いをしている生徒がいますとすぐにキャッチし、生徒の方も何かあるとスツと先生の近くに寄ってきていました。生徒たちにとって「何も言わなくてもわかってもらえる」そういう存在でした。

「何言っているかよくわからない。ついていけない。」と言われながら、いつも和やかに生徒たちと関わっていましたが、そうやって生徒の心の重さを軽くしてあげていました。その姿を見ているだけで、ホッとして、私の心も軽くしてもらいました。

笑顔と優しさと訳のわからない冗談を沢山ありがとうございました。

あなたがいつも大好きなマリア様に取り次いでくださることを信じて、私たちはこれからも精一杯生きていきます。

ご家族のみなさんは、あなたがそばにいないので、心細くなっています。特別よろしくお願いします。

覚先生、天国はいいところですか？

悲しみをこらえて毎日を生きていく私たちに希望を注ぐのが、先生のこれからのお仕事です。

マザーテレサは、「私はいつも 天国を留守にしないでしよう」と、仰いました。

天国に休みはありません。これまで以上にみんなのためによりしく願います。

では、またお会いする日まで。

二〇一八年五月二四日

友人代表 Y. E.



\* 第 67 回宮城県高校総合体育大会で同年 6 月 4 日、D 学院 剣道部は初優勝を飾った。8 月、三重インターハイに出場。